

# しいのき



## 110年ぶりの再会

前館長 比田井 克仁

哲学堂公園の正門である哲理門の両側に「天狗」と「幽霊」像が安置されているのはご存じでしょうか？平成30年（2018）度、中野区はこの二つの木像の復原修理を行いました。明治42年（1909）、哲理門創建後、安置されて以来、はじめて行われた修理です。約110年の風雪を耐えてきた二つの彫像ですが、埃まみれ、天狗像は右腕を失い、幽霊像は両手が欠落し片手が歴史民俗資料館に保管されているというありさまでしたが、丁寧に解体して洗浄、もとの姿にもどりました。修理に際して3Dスキャンデータ撮影と、塗料の化学分析を行い、これを元にして、当時の彩色を施した二代目を制作しました。現在、哲理門にはこの二代目が入っています。初代のオリジナルは歴史民俗資料館に保管されています。写真は、110年ぶりの再会を照れながらよろこぶ「天狗」と「幽霊」です。

# 文化財よもやま話

## 円了を支えた彫刻家・田中良雄

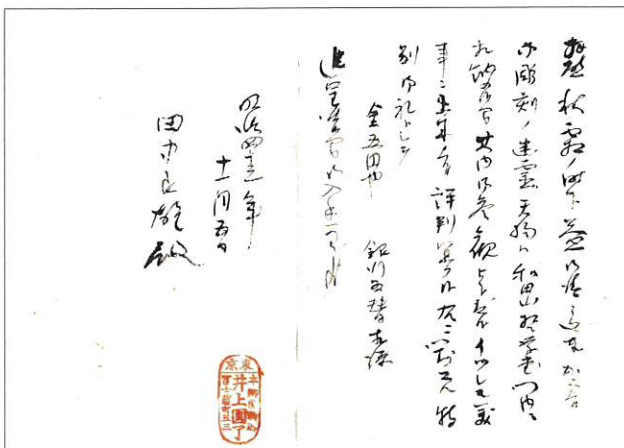
東洋大学の創立者にして、高名な哲学者である井上円了（1858-1919）の没後100年にあたり、「妖怪博士」とも呼ばれた円了の妖怪学に焦点をあてた企画展示「井上円了没後100年展～円了の妖怪学～」を、7月下旬から8月末にかけて開催しました。

中野区松が丘の哲学堂は、円了が精神修養の場として人々にひらいた公園で、正門にあたる哲理門に納められていた天狗像・幽霊像をはじめ、園内の石彫り像や石碑の多くを彫刻家の田中良雄が手がけました。これまで円了がどのように田中良雄と出会ったのかわかっておらず、交わされた書簡も本展で初出品されたものです。

田中良雄は、江戸から8代続く鍛冶<sup>かじ</sup>の家に生まれ、東京美術学校（現・東京芸大）で高村光雲に彫刻を学び、兄の桜井正次は刀工の「正次」、弟の百嶺<sup>ひやくれい</sup>は仏画師で、兄弟そろって物づくりにたけていました。

下記は、明治43年（1910）11月5日付で円了から田中良雄に送られ、天狗像と幽霊像が見事な出来ばえで評判がよいので、特別礼として5円を銀行為替<sup>かわせ</sup>で送る、という旨が記された書簡です。

哲学堂建設には多くの技師や大工らが関わりましたが、田中良雄は彫刻家として、物づくりの立場から円了を支えた人と言えるでしょう。



円了から田中良雄宛の書簡（千歳観音堂所蔵）

（北河）

# 大地に眠る歴史

## 中野区の遺跡（17）

今まで、中野区内では古墳時代前期・中期の集落遺跡は発見されていませんでした。そのため、この頃には、人口過疎の地域だったと理解されてきましたが、2018年に旧区立第十中学校の跡地の「塔ノ山遺跡」で見つかった5軒の住居跡はこの時代のものでした。

1・2・3号住居跡が古墳時代前期（3世紀末～4世紀前半）、4・5号住居跡が中期（5世紀末）の年代が与えられ、5世紀代の集落遺跡は区内では初めての発見でした。

その中でも、4号住居跡で出土した須恵器の高坏は大変珍しく、大阪陶器窯で製作されたと考えられ、TK23型式と呼ばれる5世紀第3四半期頃に製作されたものが、はるばる中野まで運ばれてきたものです。関東地方では埼玉県稲荷山古墳で同じ型式のものが副葬されるなど、当時の豪族層が所有する特別な器です。



口径  
10.6cm

高さ  
9.4cm

底径  
7.9cm

※脚部の  
上半に細  
かな横線

住居跡で発見される例は珍しく、都内では世田谷区喜多見中通り南遺跡13号住居跡と脚部の破片が板橋区赤塚氷川神社北方遺跡に認められるぐらいです。「塔ノ山遺跡」は神田川流域になりますが、この流域では同時代の古墳がいくつか発見されています。新宿区下戸塚1・2号墳、中野区遠藤山1号墳、中野区向田2号墳がありますが、いずれも径10m前後のとても小規模なものです。

このことから考えると、「塔ノ山遺跡」のある中野坂上周辺のどこかに小規模な古墳がある可能性は極めて高いと考えられます。

さて、このような貴重なものを所有していた人物は地域の指導的立場であったわけですが、どんな日常を過ごしていたのでしょうか。想像は膨らみます。

（比田井）

# 古文書つづり

## 元号（年号）について考える

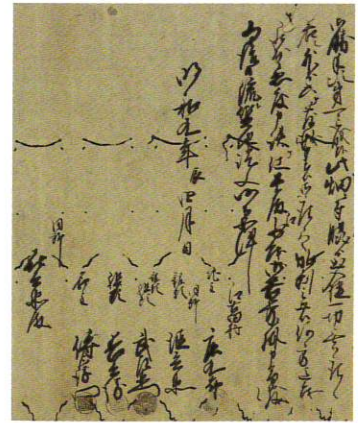
2019年度に入り、5月1日をもって元号が「平成」から「令和」へと改元されました。現在、日本のみが使用している元号の歴史は、もとは中国の前漢・武帝時代に始まるとされ、日本では「大化」（645～650年）で初めて用いられるようになりました。その後は約半世紀の空白期間を経て途切れることなく続き、公的な元号は「令和」で248個目を数えます。

明治以降の改元は、天皇一代に一つの元号を定める「一世一元の制」ですが、明治以前の改元の理由は実にさまざまです。即位（天皇の代替わり）、祥瑞（吉兆とされる現象）、災異（災害や天変地異）、干支（社会変動が起こるとされる辛酉・甲子の年）などが理由となり、天皇一代のうちに複数回改元することもありました。ちなみに、幕末期の孝明天皇の在位中（1846～66年）には6回の改元が行われています。

現在でも同じですが、江戸時代の元号にも当時の人びとの願いや不安、その時代の世相が反映さ

れています。興味深いものとしては、「明和」（1764～72年）が「安永」（1772～81年）に改元された事例があります。これは明和9年（1772）に江戸で起こった大火を契機とした災異改元だったのですが、その背景には「明和九年」が「迷惑年」に通じるという忌避の意識があったとされています。

文字の読みや物事の吉凶、古格先例などを意識した江戸時代以前の元号の在り方は、ある種の「おおらかさ」をもちながら明治以降の近代化のなかで変化しつつも日本人のなかに定着し続け、今や日本固有の文化ともいえる存在となっています。連綿と受け継がれてきた元号に思いを致し、「令和」が如何なる時代となるのかを考える、新元号となった今はまさにその好機といえるのではないのでしょうか。（富井）



明和9年4月の古文書（部分、当館蔵）  
この約7か月後、「安永」に改元された。

## 中野往來

### 宝仙寺三重塔記念碑

（中野区中央1-41-1）

宝仙寺三重塔は寛永13年（1636）宝仙寺東側の御朱印地内に中野村の飯塚惣兵衛が施主となって建立されました。江戸近郊では唯一の三重塔で、名所として天保7年（1836）に出版された『江戸名所図会』などに描かれています。

明治時代の様子については、大町桂月が著した明治39年（1906）発行の『東京遊行記』に次のようなくだりがあります。「…樹林の中に、三層塔あり。別に寺無し。朱はげ、屋根くちて、古色あり。近くに人家なくば、靈地らしく思はるゝ処也。塔のぐるりに、四国八十八ヶ所をうつせる石、多く立ちならべり。その中には、大師の像をきざめるもあり。農家の間を過ぎ、往來を過ぎ、畑を過ぎて西へ四五町ゆけば、宝仙寺あり。…」塔の周りには富士山、日光山、筑波山、愛宕山を模した講の築山が築かれ、御日待寄進碑や道了権現堂、地藏堂もありました。

また「明治三十一年戊戌年一月十五日 中野村

馬持中」と刻まれた馬頭観世音碑があり、このあたりでは珍しい行事が行われていました。当時は毎年のように、村内（町内）の馬持が総出にて、各々愛馬を美装して集まり、園内を乗り廻る「馬かけ」が催され、大変賑わいました。「この日、馬には五色のメリヤスの布に大小の鈴をいくつも付け、新調の鞍をのせる。金具は陽に映え、さながら絵巻物を見るような美しさであった。馬方が手綱を取って宝仙寺の三重塔を中心にして、半径50メートルほどの円を描き颯爽として歩く。たてがみが風になびき鈴の妙なる音が場内に響きわたった」といいます。

このように長い間人々に親しまれた三重塔ですが、惜しくも昭和20年（1955）5月の空襲で焼失してしまいました。

（榎木）



# 事業報告

## 各種事業経過

2018年10月～2019年9月

事業名	内 容	期 間
企 画 展	「明治維新前後の中野 ～江戸から東京～」 「おひなさま展」 「山崎家文書展」 「井上円了没後100年展 ～円了の妖怪学～」	10/2～11/30 2/16～3/16 5/1～6/2 7/23～8/31
特 別 展	「発掘されたガラス瓶」 「浮世絵の雅」 「中野駅と街の移り変わり」	11/13～12/23 1/15～2/17 4/2～6/2
夏 休 み 座 講	れきみんサマーフェスタ 「スノードームを作ろう」「貝のつるし飾り」「とうめい石けん作り」「テーブルミラー(万華鏡)作り」「牛乳パックで時計作り」「むかしのくらし体験」「オリジナル巻物づくり」「お楽しみ工作デー」「勾玉作り(3回)」	7/23～8/31
講 座	古文書講座 講師：笠原綾氏、大友一雄氏 伝統文化体験講座「落語教室」 講師：春風亭柳若氏	10/27～12/1 5/11～6/15 12/8～12/22
公 開 事 業	秋季「山崎家庭園・茶室の公開」 春季「山崎家庭園・茶室の公開」	10/1～11/11 4/23～5/5
そ の 他	小学校総合学習見学 24校	

## 埋蔵文化財対応

2018年4月～2019年3月

本町二丁目27番民有地立会 (4/2)	本町六丁目6番民有地立会 (9/18)
新井三丁目37番(平和の森公園)立会 (4/5)	本町五丁目33番民有地試掘 (9/19)・国庫補助
弥生町六丁目9番民有地立会 (4/6)	本町二丁目17番民有地立会 (9/19)
新井四丁目27番民有地試掘 (4/17)	松が丘一丁目34番(哲学堂公園)立会 (10/11)
本町二丁目18番民有地立会 (5/11)	江原町二丁目21番民有地試掘 (10/12)・国庫補助
本町三丁目15番民有地立会 (5/15)	江原町一丁目21番民有地試掘 (10/18)・国庫補助
新井三丁目37番(平和の森公園)立会 (5/16)	大和町四丁目14番民有地試掘 (10/22)
本町五丁目23番民有地立会 (5/18)	白鷺一丁目16番民有地立会 (11/2)
弥生町一丁目21番民有地試掘 (5/21)	松が丘二丁目19番民有地試掘 (11/5～6、12～15)
新井三丁目37番(平和の森公園)立会 (5/23)	弥生町四丁目1番民有地試掘 (11/20)・国庫補助
江原町二丁目21番民有地立会 (5/29)	中野三丁目27番民有地試掘 (11/28)
中央一丁目41番塔ノ山遺跡本調査 (5/29～9/27)	江原町二丁目12番民有地立会 (11/28)
白鷺三丁目5番民有地立会 (6/12)	南台三丁目6番民有地立会 (12/17)
弥生町一丁目10番民有地試掘 (6/20)	弥生町六丁目8番民有地試掘 (2/1)・国庫補助
中野三丁目27番民有地試掘 (7/3～5)	本町二丁目33番民有地立会 (2/1)
中野一丁目39番民有地立会 (7/6)	江古田二丁目13番民有地立会 (2/4)
東中野五丁目27番区立おかのうえ公園立会 (7/19)	白鷺二丁目48番民有地立会 (2/15)
江古田二丁目13番民有地立会 (7/24)	江原町二丁目5番民有地試掘 (2/22)
白鷺二丁目46番民有地試掘 (7/26)・国庫補助	松が丘二丁目19番民有地立会 (3/11)
弥生町五丁目2番民有地立会 (8/21)	江原町一丁目19番民有地立会 (3/25)
本町五丁目23番民有地試掘 (8/28)・国庫補助	江原町二丁目17番民有地立会 (3/25)
本町二丁目19番民有地試掘 (9/18)・国庫補助	

## 寄贈資料一覧

2018年10月～2019年9月 敬称略：受入順

資 料 名	点数	氏 名
臼、杵	3	篠 浜子
火消刺し子コート等	5	森下 芳子
冊子「江古田の獅子舞」	1	小川 清
ひな道具等	一式	梶野 保子
木目込ひな人形	一式	神山 まゆみ
上高田附近迅速測図之素図等	2	津田 芳男
ポータブルテレビ	1	横山 奈美

資 料 名	点数	氏 名
昭和39年東京オリンピック公式ポスター4種	4	藤木 雅清
復興写真集等	2	影山 昌子
8ミリ映写機・撮影機	2	宮崎 勝弘

発行年月日 2019年10月1日

山崎記念  
編集・発行  中野区立歴史民俗資料館

〒165-0022 東京都中野区江古田4-3-4

☎ 03(3319)9221 FAX 03(3319)9119

◎貴重な資料をありがとうございました。厚く御礼申し上げます。